

令和 6 年度学校評価報告書

令和 7 年 3 月 3 1 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道森高等学校長 佐 紺 撰 子 印

次のとおり令和 6 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的生活習慣、規範意識を定着させ、自らを律する心や多様な他者を思いやり尊重する心の育成に努める。
- (2) 個性の伸長と進路実現を目指し、自ら学ぶ意欲・態度の育成に努める。
- (3) 自他の生命を尊ぶ態度、健康・安全・福祉に係る意識を高揚し、たくましい心身の育成に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	①評価法の工夫による学習意欲向上 設定した基準による適切な評価を各教科が実施することにより、生徒が学びの意欲を向上できるように実施した。また今後も校内研修や日常の学習指導の交流から、効果的な評価方法を深める。 ②ICTの有効活用と発信 今年度は、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）としてデジタル等成長分野を支える人材育成を目標にした学習を実施し、ICTの有効活用を図った。 ③地域資源・地域人材等を活用した授業内容、学習方法の工夫 地域の方々が授業に参加し、郷土の良さを再発見したり、地域が活性化するための手がかりを協働して深めていく活動を実施した。故郷に愛着を持ち、地元の発展のために活躍する若者を育む。	・ICT等を活用し、家庭学習などによる学び直しの充実を図り、生徒の確かな学力の育成に努めた。 ・学習環境整備については、学習計画を踏まえた効果的なICT活用の充実を図り、DX事業等の充実につなげた。 ・地域と学校が目標を共有し、一体となって地域の若者を育て、地域を支える人材育成を目指している。さらに地域の教育資源を開拓しながら、地域とつながり実践的な学習を推進する。
改善方策	・小規模総合学科として、系列を精選し、社会のニーズを見据えた高校で伸ばしたい力を明確にし社会生活で活躍できる人材を育成できる教育課程の充実を図っていく。 ・今後もICTスキルを磨き、ICTを目的に応じて適切かつ効果的に活用できることや地域と良好な関係を築き、地域の人的物的な教育資源を有効に活用しながら、生徒の進路実現や学習意欲の向上につながる指導の充実に努める。	
生徒指導	①学習活動や生徒会活動等、全ての教育活動で共通して行う生徒指導の実践 指導の温度差やずれを解消し、教員が一貫性を持って指導できるように共通理解を図ってきた。規範意識の向上を目指し、生徒理解に努め、一人一人の理解を深めながら親身な支援を続けてきたことから、生活態度に改善が少しずつ見られた。 ②いじめや不登校等の未然防止と早期発見・対応の実践 教員全員による計画的な生徒との面談を定期的を実施してきたことで、生徒と教員の距離が近くなり、生徒からの相談等が増え、いじめ等の未然防止や落ち着いた生活を送ることができる要因になった。 ③家庭や地域と連携を図り、日常的な教育相談の推進 学校祭などの学校行事は、地域や家庭との連携を密にした活動により郷土愛を深めることができた。さらに生徒の主体的な活動が多く実施され、人前で自信を持って発表できる力が育成された。	・未然防止の観点にもとづいた日常的な生徒との関係づくりを構築していくことで、学校における問題行動等の減少につながった。 ・生徒会行事を充実させることを学校や地域に愛着を持ち、協働意識や自己有用感の向上させることができた。 ・生徒会等を中心とした生徒の澁刺とした主体的な活動を行事などで披露することにより本校の良さを伝えるとともに生徒の成長も感じられた。
改善方策	・従来の教師主導の生徒指導から、生徒自らがセルフチェックしながら、充実した教育相談を軸にしたカウンセリング的な生徒指導に転化していく。 ・学校・家庭・地域がより連携を深めながら、生徒の主体性を引き出した学校行事等の教育活動の充実を図る。	
進路指導	①小規模総合学科校としての特色あるキャリア教育の確立と実践 1年次で「インターンシップ」、2年次で「アカデミックインターンシップ」を実施。3年次では進路に関する課題研究を実施した。特色あるキャリア教育の推進を図り、生徒の進路実現に繋げていく。 ②自己理解にもとづく主体的な進路選択・行動のできる生徒の育成 進路講話や進路行事の実施により、生徒の職業観の育成を図り、生徒が主体的に具体的な将来像を導けるように担任を中心に生徒に寄り添いながら進路指導に努めた。 ③家庭・地域と連携した組織的な進路指導の推進 職業人講話など、町内企業、関係機関の方々の協力の下、実施することができた。また、各種検定の受検補助や学習コンテンツの提供などを通じて、進路活動の拡充を図ることができた。	・系統性のあるキャリア教育を実践し、生徒が進路に対する視野を広げていくことができた。 ・地域との連携を強化し、インターンシップなどで新たなつながりの開拓や現状の取組を発展的に向上させるなど、さらに進路指導の充実を図った。 ・地域資源を活用した実践的な進路指導を高めていくことで、郷土愛を深め、地域に貢献する意識を高めることができた。
改善方策	・総合的な探究の時間の探究活動や進路活動の充実と発展を図る。 ・進路通信等で本校の進路状況を広報し、広く理解を求める。	
公表方法	・評価結果をまとめて、教職員に対して会議にて公表説明した。 ・外部には本校ホームページ上に掲載した。	

3 添付資料

- (1) 令和 6 年度学校経営シラバス評価（教職員）
- (2) 令和 6 年度学校評価（自己評価・教職員）
- (3) 令和 6 年度学校評価（学校関係者評価・保護者）